

眼科

最新鋭の「超広角走査レーザー検眼鏡や」硝子体白内障手術機器の導入で低侵襲の診断・治療

荻野哲男院長が手がける硝子体手術は2200例、白内障手術(硝子体同時含む)は6700例に及ぶ。市立札幌病院をはじめ、アメリカ・インディアナ大学眼科などでも数多くの治療実績を重ね、その豊富な経験と高い技術により、眼科疾患をトータルに診ることが

できる。また難治症例や合併症の治療にも対応、地元だけでなく札幌市内各地から患者が訪れている。侵襲が少ない極小の創(傷)で短時間の手術を実践しているのも同院の特徴。白内障手術では、国内最小切開創である1・8mmの極小切開手術を実施。通常レンズや



荻野 哲男 理事長・院長

乱視矯正レンズのほか、多焦点眼内レンズ(先進医療)の挿入にも対応している。同院は多焦点眼内レンズを用いた白内障手術で「先進医療認定施設」になっているため、医療保険で先進医療特約がある場合には医療保険給付金で先進医療費をカバーすることができ

る。網膜硝子体手術では、27ゲージ網膜硝子体手術装置を備えており、傷口は0・4mm程度だ。検査機器も充実しており、視神経と網膜神経線維層を3次元的に解析でき、かつ無侵襲である最新の「3次元光干涉層計」(3D-OCT)を導入。最近、2台目を導入し、診療時間の短縮を図つ



▲外観

ている。2013年には、硝子体白内障手術装置「ステラリスPC」を道内で2番目に導入した。眼底内を120度の広い視野(通常は30度)で見ることができ

るシステム「B IOM」と併用することで、難治症例もより短時間かつ安全に手術することができ

る。14年3月には、優れたレーザーモードと安定した出力を高いレベルで両立している、最新のレーザー「Vision One」を導入。治療時の痛みが少なく、治療時間はわずか2〜3分。糖尿病網膜症や眼底出血、網膜裂孔、網膜剥離、加齢黄斑変性などの治療に活用し

ている。さら

に昨年11月には超広角走査レーザー検眼鏡を、



▲硝子体手術など多数の手術実績を持つ

道内初、全国でも3番目に導入した。これは



▲超広角走査レーザー検眼鏡

画面200度、眼底の80%以上の領域を無散瞳(瞳を広げて撮影する必要がない)、非接触で撮影することができ、短時間かつ低侵襲の診断で網膜疾患の早期発見ができる最新鋭の検査機器。加えて今年6月に、硝子体白内障手術機器「コンステレーションビジョンシステム」を導入。前述のステラリスPCと2台併用することにより、症例に応じた効率のよい手術を目指している。

「眼科疾患は生活の質(QOL)に大きく影響します。今までの経験を活かした高度な医療を、患者さんが治療を受けたと感じた時に可能なかぎり早く提供していきたい」と荻野院長。

医療法人 北広島おぎの眼科
社 北広島市北進町1丁目2・2
北広島ターミナルビル1階
☎(011)370・1010